

め鎌倉橋、新常盤橋、常盤橋等がある。尙ほ此の外にも昭
和道の蓬萊橋、新京橋、江戸橋（前掲）及和泉橋がある。
これらの架橋工事は皆復興局の施行したるものであるとの
こと故更に復興局關係の隅田川に架設せる相生橋、永代橋、
清洲橋、藏前橋、駒形橋及言問橋の六大橋を見たるに、何
れも此の前後左右共に漢字標示の橋名である。復興局が従
前の假名字を排斥して漢字のみに改めたのは自ら恃む所あ
つて新機軸を出したのであらうが、さり逆同一市内に於て

も東京市自身の施行するものには此の方法が普く及んで居
らぬのは何のことだ。固より復興局の執法を是とし之に倣
へといふのではないが、適當のものに統一することは望ま
しく思ふのである。尙ほ復興局の施行したる百十幾つかの
橋梁には、橋の側面に橋名の標示があるが、これは航行者
の利便の爲に適切なる標識と思ふ、東京市の施行したる御
茶ノ水橋の橋側にも橋名を標示したのは彼に模倣したので
ある歟。

良二千石會議の遙望

咲いたと思つた櫻はもはや散つて残んの花の打ちしほれ
た姿が窓外にちらつく此頃、年中行事の地方官會議が開か
れた。良二千石との通り名で思ひ起すのは、君を撰ぼか二
千石取るか何んの二千石君と〇よと云ふ情熱的な地方長官

は果して幾人かある。蓋し一人もあるまい只の一人もあ
るなしではなからうか。昔日の中井櫻州や服部一三氏や大
森鐘一翁やまつた森正隆氏などの事を思ふと時代の變りは
甚だしいものだと馬の足生がかこつても無理ならぬことであ

夏 木 圓 卓

る。餘談はさておき、かの永田町の元の鍋島侯邸にある壯麗な官邸、犬養總理大臣が白晝公然軍服用の暴力團に襲撃刺殺された處、濱口總理大臣の中島祕書官に依つて我々の同志がピストルで威嚇された家、そして濱口氏遭難後見るも不快な鐵網で塀の上に取り圍まれて居る總理大臣の官邸其處で第一日の會議が開かれた、夫れで溜池の方の坂を上つて表門へ廻はつたが立番の警官に一睨みせられて、へこたれてまかりさがつた圓卓生、クヤシともクヤシイので思ふ處を遠慮なく述べさしてもらいたい。

先づ第一は齋藤總理大臣の訓示であるが、官吏ならぬ身の肉聲的訓示でなくて夕刊二枚三錢の新聞紙上の訓示を承つてみると劈頭千餘言を費やす處は滿州獨立の承認から去月二十七日の内閣告諭第一號に言及して居る、よもや良二千石ともあらう勅任官各位が此千餘言の訓示に現はれておる事實と内閣の認識と其の方策とは先刻熟知なのであらう、何の必要があつて斯くも繰返し言を爲すのであらうか、大詔中の「嚮ふ所正を履み行ふ所中を執り」を「正を

履み中を執つて進まねばなりません」と簡易化したのでは却つて聖旨を奉戴して人類の福祉に貢獻するの大を爲さんとすることが弱められはしまいか、尤も相手が一地方の國政に限りて掌理する役人だから斯くも制限せられたのであらうか、トント判らない、寧ろ詔旨と内閣告諭の本旨とする所を十二分に徹底的に實現し得る實行的方法を講ぜよと簡單に要求する方が適當なのではあるまいか、次は八年度の政府豫算の已むを得ざる理由を略説して地方民に對し國庫の助力に俟たず自力更生を地方長官に要求せられて居るが國庫の窮乏、地方自治團體の窮乏、國民各自の窮乏等は内閣諸公が耳に目にオーバーロードしておることほど承知せられて居る處で今更是等の事情の下に自力更生を地方長官に求められた處で如何に賢明な長官も此の實行方法には悩まされることであらう、部下の吏僚も妙案の持ち合せはなからう。更らに轉して現内閣の重要使命の一として自任せる政界淨化問題に關してはサスガにと思はるゝ點があるも從來の弊風稍々矯正せられたるの傾向を見ると欣懷の感

を述べられて居るは中心からの喜びの聲であらうか日々々中央地方の新聞紙上に暴露せられておる各種選挙の不正悪徳官公吏の瀆職事件等の事實は果して淨化の一現象と見らるゝのであらうか固より此等違法行爲が悉く事實ではあるまい、或は地方警察官憲と司直官憲との感情的に出でたる事も絶無とは思はれず或は當該官憲の誤認錯覺に出でたる事もあるだらう、大體に於て淨化の事實は之を廣言する程の事象として見られないではなからうか、併し行政官吏に黨弊の浸潤を避けよと呼びかけられ一に地方民の利害休戚を是れ念として常に至公至平一黨の私なきを期せよとは政黨的行政官に向つての項門の一針であらう、若し夫れ終の一言はなくものかなと思はる、島田政友會總務をして「氣魄の欠けた訓示」だとの皮肉の一言を放たしめたのも此終りの一言であらう、此終りの一言で勅任官たる良二千石各位に安心と希望と盡職の精神を振興させ、敢て流言浮説に惑はされず現内閣の恒久性持續性確守力を認識せしむるの力があるのであらうか、敢て内閣諸公に舉閣一致進退何れか

の一路に勇往邁進せられんことを翹望するのである。第二日目は内務省で開會されたので一寸あのバラック建の古びた門まで行つたが頭數には足らないが縣廳のや旅館付きのやらの自動車を知事閣下に乘すてられて門の内外に群集して居る、勇を鼓して玄關まで進んだ、處で各府縣のカバンの守やガマの油宣傳賣諸氏が右往左往しておる、舊知の局長祕書室には數人の地方官僚らしいのが何か話し合つておる、會議は開かれ山本内務大臣の訓示はやがてアノ佛顏の唇からせんせんとしてもれ出た、君見たか之れと一記者が手に出す日本紙に活版摺の總枚數五枚四十字詰七十六行約三千字數ののを見ると山本内務大臣訓示要旨であつた、就いて見るに「現下の國情は決して寸毫の偷安を容さぬのでありますから諸君は更に一段の緊張を以て事に當り」とは至極尤もなことであるが「愈惟神の日本精神を更張し」で聊か惑はざるを得ない感がある、良二千石各位は惟神の日本精神を如何に認識せらるゝや否、身分保障の爲めに惹起し易い偷安姑息地綏熱意減退の諸症を警告せ

られたのは確かに時弊を摘指せられての療治警告である、
だが地方長官の一言一行は直に一般に反映するものとは首
肯し得られざるも凡そ一廳に一部に長官としてある者の言
行が其の社會的信用に多大の影響を及ぼすことは日星より
も明かである、部下吏僚の指揮監督乃至其の進退配置上に
意を用情實になづむことなく一に人材簡拔の趣旨を貫徹
することは今更のことではあるまい、社會焦躁裡にある國
民の不安状態に關する對策として希望せらるゝ所も適切な
所説であるが特に左右兩極端の主義者に向つての手段を公
正に出だして苟くも國運の進路に障礙なからしめんこと
に着目せられたる處は内務長官として正々踏み中を執られ
たのであると思はるゝ、其の地方財政に關する處で深謀遠
慮が現下の地方財政の變理上肝要な事であつて放漫を防止
し財政の基礎を堅實に負擔の公正を希望せられて居るが明
治三十六年以降地方長官會議に於ける常套的事項の一であ
ると記憶する、要は具體的方法であつて抽象的の方面は敢
て言を費やすに及ばないであらう、土木匡救事業の施行に

關し從來の黨勢擴張利用や地方政治家野心利用の通弊を警
告し殊に來るべき町村會議員の選舉に際しての處置につき
細心の用意を求められたのは所謂覆車當戒の言か、内相の
眼明それ火を觀るが如き底のものか、醫療救護の普及充實
を圖ることに對しては非常時施設としての機能を十分に發
揮せよと求められてをるが凡そ醫療救護事業の如きは非常
時たると常時たるとを問はず其の實績を十二分たらしむる
ことに地方官の努力用意を要するは勿論である、終に協力
戮力以て匪躬の節を竭さんことを望まれてゐる多謝、畢は
雨を好み箕は風を好むの地方民に對して切々の情を盡し、
炎々の熱を以て、專心一意敢て政變の去來を顧慮する處な
く其の職に忠誠ならんこと山本内相の訓示を持つまでもな
いことである。地方長官各位よ内相訓示の要旨を鞏底に藏
することなくして克く之を活用することに努め、更らに訓
示以上に遠觀する所があつて上に忠に府縣民に信に、纏ふ
所正を踏み行ふ所中を執られんことを衷心から切望する。